

令和3年度 大豆栽培管理情報第4号

令和3年9月発行

大分県中部振興局 集落営農・水田畑地化班

4. 生育期の管理作業（後編）

- ・播種期が遅く、生育量が少ない圃場でも開花期に入っています。
- ・開花期～子実肥大期の適期防除により、収量・品質の向上を図りましょう！

1) カメムシ及び紫斑病防除 ～見えにくい所で収量・品質を低下させます！～

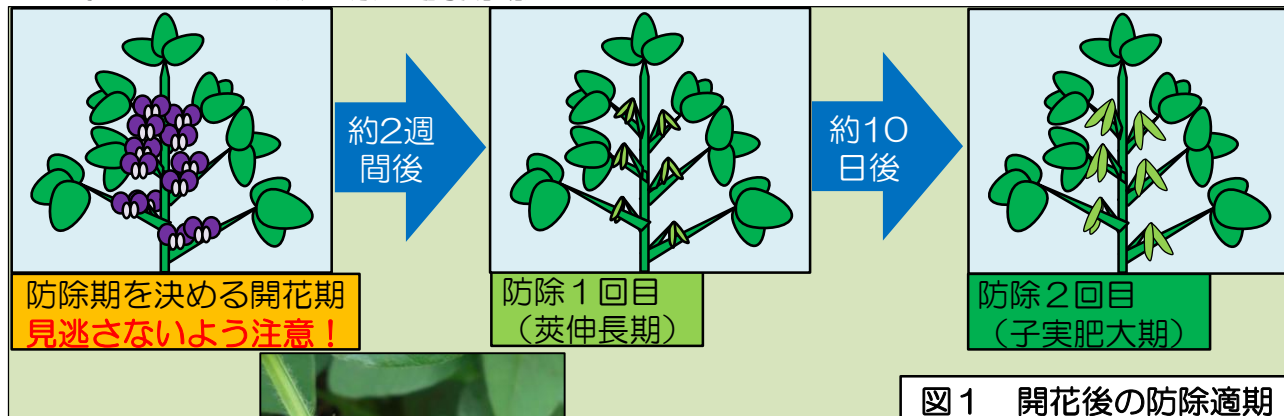


図1 開花期後の防除適期



図2 大豆の品質低下を招くカメムシ (例「ミナミアオカメムシ」令和元年撮影)

(参考) カメムシ・紫斑病防除に用いる薬剤

薬剤名(カメムシ防除)	散布時の注意		使用上の注意	
	倍率	散布量/10a	収穫前	回数
キラップフロアブル	2000倍	100~300L	7日まで	2回以内
スタークル液剤10	1000倍		21日まで	
スミチオン乳剤				
薬剤名(紫斑病防除)	散布時の注意		使用上の注意	
	倍率	散布量/10a	収穫前	回数
アミスター20フロアブル	2000~3000倍	100~300L	7日まで	2回以内
サンリット水和剤	1000~2000倍		14日まで	
ペルクートフロアブル・水和剤	1000倍		7日まで	4回以内

(参考) 散布量別使用量

希釈倍率	散布水量/10a		
	100L	200L	300L
1000倍	100ml	200ml	300ml
2000倍	50ml	100ml	150ml
3000倍	33ml	67ml	100ml

ポイント

- ・カメムシ及び紫斑病の防除時期は開花期が基準となります。大豆の花は非常に小さいので、本葉の付け根を確認し開花期を見逃さないようにしましょう。
- ・カメムシによる大豆の被害は、莢の生育ステージごとに異なります。同時に汚損粒の原因となる青立ち株発生にもつながります。開花期後の生育に注意し
1回目(莢伸長期) : 落莢・板莢の発生防止による収量確保が目的
2回目(子実肥大期) : しわ粒・奇形粒の発生防止による品質向上が目的
の防除を確実に行いましょう。
- ・紫斑病防除は、1回だけでは不十分です。カメムシ防除と併せ2回行い、確実に防ぎましょう。
- ・カメムシ及び紫斑病菌に薬剤抵抗性を持たせないよう、同じ薬剤を繰り返し散布しないようにしましょう。

注意! ☞引き続きハスモンヨトウ防除、排水対策及び中耕培土を徹底してください。また台風等への対策は、事前に済ませるよう心がけましょう。

お問い合わせ先：電話097-506-5791

ホームページ : <http://www.pref.oita.jp/soshiki/11604/saibaikanrizyouhou.html>